

8. 意見の概要(400字程度)

利根川上流域の活火山(浅間・榛名・赤城)が河川に与えた影響と自然史を研究してきた立場から、治水・利水・防災上も地震や火山活動による土砂移動と河床変動の履歴を全く反映させない河川整備計画は、現状認識の乏しい机上のものと言わざるを得ません。ハツ場ダムに至っては、住民の生活基盤を奪う災害を誘発するだけでなく、下流域の洪水・土砂災害拡大へとつながります。支流河川及び山麓からの土砂供給は、本流の河床上昇だけでなく合流河川の流域特性が反映する影響を与えており、この把握なくして河川整備計画は成立しません。昭和6年の西埼玉地震や地震性崩壊による河床上昇、浅間・榛名山等の土砂災害の実態すら認識もせず、治水は流域全体で守るという基本を忘れた計画である。過大流量にあわせた捏造氾濫図の作成までしたダム計画や洪水と氾濫を堤防内に押し込める稚拙な整備計画は全面撤回して再構築すべきだろう。山林・農地の長期的な保水力向上と放射性物質で汚染した水源林の更新も急務であり、流出量抑止に繋がる住宅地の天水利用率向上への取り組みも重要と考える。